

宮城山岳通信 第25号

目次

巻頭言	支部長 2~3 頁
定例役員会報告	事務局 3~4 頁
山岳古道調査特別委員会報告	事務局 4~5 頁
宮城支部山行報告	
☆秋山山行（糸岳）（共益事業）	千石信夫 5~6 頁
☆晩秋山行（栗駒古道）（共益事業）	富塚和衛 6~7 頁
☆初冬山行（関山街道）（共益事業）	加藤知宏 7~8 頁
今後の行事予定	事務局 8 頁
原稿募集のお知らせ	会報・編集出版委員会 8 頁
編集後記	会報・編集出版委員長 8 頁

巻 頭 言

支部長 千石 信夫



(2022.1.1 泉ヶ岳山頂にて)

新年あけましておめでとうございます。今年も会員の皆様と共に、元気に楽しく活動ができますよう願っております。

昨年は新型コロナ感染の影響により、思うように活動することができませんでした。

その後、感染状況も比較的治まってきたことから、共益事業である支部山行では、山岳古道調査の前準備として、その周辺の山を主に歩きました。しかしながら年明け早々、既に想定されておりました第6波が、変異株と共に襲来しております。益々私たちの行動が思うようにできない状況にあります。感染対策を遵守し、十分注意し、活動をして行きたいと私は思っております。

120周年記念事業の山岳古道についてですが、私自身この山岳古道調査については非常に楽しみにしております。それは前回の通信でも述べましたように、この山岳古道調査のおかげで、より深く郷土の歴史や文化の魅力を再発見することができると思っているからであります。この度の調査の趣旨にもありま

すように、対象地域の古道を取り上げることで、その地域の歴史や文化そして自然の素晴らしさなどを広く紹介できれば、まさに公益社団法人として社会貢献活動に寄与することと考えております。会員の皆様も、郷土の歴史を通じて、その時代の先人たちが辿った道を深く体験しながら、調査活動に参加されることを希望します。

話は変わりますが、昨年末に本部の支部事業委員会から、アンケート調査依頼がありました。5年後の宮城支部をどうしたいか？との難問をいただきました。5年後の宮城支部は、このままの状況が続けば、現在の支部会員数が31名（平均年齢72才）でありますから、想像するだけでも大変な状況が目当たりあることを実感し、魅力ある支部にするためには、何をどのように改善しなければならないのか悩み模索しているところです。公益社団法人になってから、何かと面白く無くなってきた、という声を聞いたりしますが、現実として、我々公益社団法人であることを自覚して活動しなければならないと思っております。ただし、活動が楽しくなければ、活発な活動もありませんし、人は集まっては来ないことは明らかであります。

私自身は、会員に対する奉仕役であることを、さらに自覚しなければと思っております。現在、支部に新しく入会された方に対してのフォローは勿論、出来るだけ個人山行でも良いですし、お互い誘い合って山に入ることを心掛けていきたいと思っております。集会委員長としても、特に心掛けていきたいと思っております。新しく入会された方は、特に会費に対して、どのような良い点があるのかを考えてしまうと思えます。我々は入会して良かったと思っただけのように努力しなければならないと考えております。私は、全国

規模の山岳会の強みのようなものを発揮できないか考えていきたい。本部からは既にオンラインなど行っていますが、もう少し本部と支部や支部同士の交流について良い方法がないか模索しているところです。

総花的になりましたが、まずは皆様の周辺の人で、山が好きな人、山の文化を趣味とする人、山に興味を持っておられる方には是非声をかけてみましょう。

以上、山岳通信のご挨拶といたします。今年もどうぞよろしくお願い致します。

【役員会議事録】

■令和3年9月定例役員会は、コロナ感染による「まん延防止等重点措置」により中止

■令和3年10月定例役員会■

日時：10月13日（水）18：00～

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、冨塚、千葉、柴崎、高橋、草野、佐藤、宇都宮、鳥山 計9名

《報告事項》

イ 総務・財務委員会からの報告

・支部連絡会議（9.25zoom会議）参加報告について・・・千石支部長と冨塚が参加

・「新型コロナウイルス感染拡大の中の登山者が留意する事」の資料について

・晩餐会中止のお知らせについて

・山梨県からの協力要請（8.29）について

・令和3年度支部助成金等交付金について

ロ 山行集会委員会からの報告

①8月夏山山行実施結果について

②10月秋山山行（糸岳）実施計画について

ハ 他委員会からの報告

《審議事項》

①古道調査委員会の設置及び今後の調査活動

について：宮城支部内に今後の調査活動を推進する調査特別委員会を設けることを承認。

また、担当委員を選任、承認される・・・「山岳古道特別委員会」参照

②今後の活動予定について

11月に調査特別委員会の第1回目の会合を開き、具体的な活動を話し合う。

■令和3年11月定例役員会は、休会

■令和3年12月定例役員会■

日時：12月22日（水）18：00～

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：冨塚、千葉、柴崎、高橋、横山、佐藤、中里、鳥山 計8名

《報告事項》

イ 総務・財務委員会からの報告

・支部連絡会議について：2022年1月20日（木）にオンラインで開催されるが、これまでの週末開催から平日夜で試すとのこと。

・JAC支部事業委員会・アンケートについて：会員の減少とともに高齢化、若手会員の入会減という問題に対処するアンケート。12月31日まで本部提出。「審議事項」参照

・令和4年度支部事業計画書・予算書について：事業計画は事務局で、予算書は会計担当で、それぞれまとめる。

ロ 山行集会委員会からの報告

①10月秋山山行（糸岳）実施結果について

②11月晩秋山行（栗駒古道）実施結果

③12月初冬山行（関山街道）実施結果

（このあとの「宮城支部山行報告」参照）

④厳冬期山行実施計画について

1月は無し。但し泉ヶ岳元旦登山は自主参加

2月の厳冬期山行は佐藤委員が計画立案

ハ 他委員会からの報告

①11月4日に開催された山岳古道調査特別委

員会からの報告：議事録説明（冨塚）

②会報・編集出版委員会からの報告：「宮城山岳通信第25号」を来年1月に発行予定（鳥山）
《審議事項》

・JAC支部事業委員会からのアンケートに関して：宮城支部会員の現状＝正会員31名、団体2、準会員1の33会員。このほか支部友11名。平均年齢は72歳。支部事業に参加するアクティビティ会員は約18名で平均年齢は73歳で、この内8名は5年後に80歳台に入る。

こうした状況を踏まえ、宮城支部として会員を増やす方策を話し合った。意見として女性会員に特化して募集する案、山の興味の裾野を広げて募集する案、他団体と連携して呼び掛ける案などが出された。

■令和4年1月定例役員会は、休会

【全国山岳古道調査特別委員会】

■第1回委員会

日時：令和3年11月4日（木）18：00～

場所：仙台市シルバーセンター5F会議室

出席者：千石支部長、冨塚リーダー、柴崎、高橋、佐藤、太田、遠藤、加藤、鳥山
計9名

支部長挨拶―山岳古道調査を開始することになった。冨塚さんを中心に進めていく。

《打合せ事項》

（1）古道調査の趣旨

古道を調査することは、人々のルーツの再考、地域の見直し、再発見に繋がり、失われつつある歴史遺産を次の世代に向け伝え継ぐ。

（2）スケジュール

・2023年度までメインとなる山岳古道120を検定、その調査・踏査を行う。

・2025年度まで並行して全国山岳古道の情報

を収集し、進行状況などをサイトで発表、そしてサイト上で調査報告を行う（尚、調査内容の書籍化も検討）。

（3）宮城支部の進め方

①調査対象古道

・1次推薦分＝蔵王古道、栗駒古道、二口街道

・2次推薦分＝関山街道

の4ヶ所。このうちテストサンプルとして身近な関山街道の調査を先行する

②調査スケジュール

・本格的な調査は、来年度、雪が溶けてから行う。

・それまでの間は、文献調査を行うなどテンプレート作成の為の準備をする。

・2022年度中に、テンプレートを作成し、本部に報告する。

③必要となる調査事項

イ 実地調査

・調査は担当者を決め、主に担当者が主体となって実施する。

・各古道の担当者は次の通り

蔵王古道＝佐藤（チーフ）、冨塚、太田、遠藤

栗駒古道＝冨塚（チーフ）、千石、太田、遠藤

二口街道＝千石（チーフ）、冨塚、遠藤、佐藤

関山街道＝遠藤（チーフ）、冨塚、佐藤、太田

ロ 取材調査

冨塚、鳥山、加藤及び各チーフ

ハ 文献やWebなどでの調査

冨塚、鳥山、加藤及び各チーフ

④デジタル原稿作成

・各チーフは担当する古道のテンプレート作成のための粗原稿を作成。

・これを冨塚、鳥山、加藤が中心となって、調査特別委員会としての報告用テンプレートを作成。

⑤役割分担

- ・役割分担は (3) の③の通り
- ・調査特別委員会として、取り纏めたデジタル原稿は、役員会に諮り、承認後に本部に報告する。

【宮城支部山行報告】

秋山山行

報告者 千石信夫

実施日 令和3年10月17日(日)

山名 糸岳(1227.7m)

コース 秋保ビジターセンター～糸岳登山口～二口峠～糸岳～二口峠～山形ゲート～御境目番所跡入口～古道探索～翠雲荘(昼食)～古道探索～林道～番所跡入口～秋保ビジターセンター解散

参加者 会員=千石信夫、冨塚和衛、草野洋一、横山哲、千葉正道、加藤知宏、高橋二義、ゲスト=阿部孝祐 以上8名

新型コロナ感染対策である国の「緊急事態宣言」と、宮城県に於ける「まん延防止等重点措置」の解除を受け、我が支部も山行を解禁とし、秋山山行を山岳古道の調査対象山城でもある糸岳を選定し実施することとした。

当日の天候予報では寒冷前線が東北地方を通過することで、雨の予報であるものの、その後は冬型の気圧配置で気温は冷えるが、回復傾向であったので決行の判断とした。最近雨の中を歩くことも少なくなり、時々雨も体感しておくのも悪くないという気持ちもあった。

秋保ビジターセンターの駐車場に参加者8名が集めた。私から今日の糸岳のルートについて説明、登山口から入ったところで渡渉箇所があるので、水嵩が多ければ無理をせず二口峠から糸岳を目指すことにする旨をお話

した。糸岳登頂後の予定は、二口御境目番所跡を見学する予定とした。

車を整理し高橋二義車と千石車の2台で林道に入り、糸岳の登山口である白糸の滝入口に車を止め渡渉地点まで向かう。昨日からの雨もあり水量も多く、二口峠から糸岳に向かうことに変更する。再び車で峠まで移動する。

峠からは分水嶺のルートでもある稜線上を北上し、笹藪のなか登山を開始した。雨はさほど強くないが、風は強くなってきている。

しばらく歩くとブナ林の中を歩くが、霧の中の鬱蒼とした景観が美しく見えた。紅葉は一部黄色の葉が見える程度でまだ青い。途中ナナカマドの実が鮮やかに光っているのが印象的であった。

まもなく糸岳山頂到着。小休止後、記念撮影し下山する。途中、後から登ってきた高橋二義さん、横山哲さんと合流し一緒に下山する。峠では、山寺に降りるルートが藪に包まれているのを確認。その後は林道を山形ゲートまで移動し、仙台神室方面の山々を眺めた。御境目番所跡へ向かい、高橋二義さんに二口古道についてのガイドをお願いした。高橋さんは、二口古道について以前より研究されており、3年前ごろからは現地古道調査もされている。二口の名前の語源である石碑を確認し、その分かれ道から清水峠までの古道を暫し歩くことができた。今は全く歩かれていない道ではあるが、はっきりと古い道の形が確認できるところが分かった。お昼となり翠雲荘にて昼食をとる。この小屋とその周辺の土地は山形市の管理、宮城県側にある土地であるが所有は山形市。高橋さんは“悔しいね、仙台市に買い取ってほしいものだ”と、何度も口にしている。もともとは仙台領であるが、本当に悔しい想いは私も同感であった。

昼食後は、番所跡から野尻方面への古道を

300メートルほど下った。この部分は、沢を超えるのに橋があった跡と見られる石積みなどが確認できる。また、林道造成の工事により古道が埋められた部分などがあり、歩きにくい部分もあった。林道を番所入口まで戻って古道探索を終了する。ビジターセンターまで戻り、次回の支部山行は栗駒古道を踏査したい旨、冨塚さんよりお知らせがあった。そのあと解散とした。今回は加藤知宏会員のお誘いで阿部孝祐さんがゲスト参加された。若い人が参加されることは嬉しいことでした。



糸岳下山道にて

晩秋山行

報告者 冨塚和衛

実施日 令和3年11月13日(土)
山域 栗駒山麓:栗駒古道(標高約900m)
コース 世界谷地駐車場～大地森御前～巨木の森入口～木柅の大クロベ～(昼食)～往路を返し～世界谷地駐車場～解散
参加者 会員=冨塚和衛(リーダー)、千石信夫、冨塚眞味子、横山哲、加藤知宏、鳥田笑美、支部友=鳥田伊志、針生紀子、村上敏郎、多田孝徳、佐藤富士子、ゲスト=阿部孝祐以上12名

県内のコロナ感染者も少数で推移するようになったことから、10月に活動自粛を解除し

月例山行を再開した。引き続き11月の月例山行も栗駒山麓「歴史と巨木の森:栗駒古道」で実施することとした。

山頂に雪を頂く栗駒山(1627m)を仰ぎ見ながら、山麓の集合場所に向かう。行く手には虹がかかり、天候が懸念された。8時50分には参加者全員が世界谷地駐車場に集合。それに地元に住む旧知の山岳ガイド(公益社団法人日本山岳ガイド協会会員)狩野浩氏を加えた13名の山行だ。挨拶後、狩野氏を先頭に栗駒古道に歩みを進める事に。

栗駒古道(栗駒越え)は中世、奥州から奥羽山脈を越えて羽州仙北地方に通じる道の一つとして開削されている。江戸時代になると「栗駒越え仙北道」は「上羽道」と呼ばれ、一里塚とお助け小屋(山小屋)を完備し、安全と便利さにより山越え街道中、一番の交通量を誇った。明治になると、県道「羽後岐街道」として認定を受けたが、和賀越え道が拡幅され、荷馬車が通れるようになってからは羽後岐街道の交通量は激減し、廃れていった。栗駒古道はその名残である。

栗駒古道入口に設置されている案内板の前に、狩野ガイドからルートの説明を受ける。時刻は9時、葉を落した広葉樹の森に伸びる緩やかな勾配の古道に行く。20分程で^{まぐさもり}お助け小屋跡地に着く。1本の杉の木が跡地の目印だそうだ。そこから30分程登って行くと「聖石」がある。高僧が腰を下ろして一服したところなのだろう。

この辺りは「ブナの森」と称される処だ。途中、下って来る背負子の初老に逢う。中を覗かせてもらおうと、背負子にはキノコがぎっしり。狩野ガイドによれば、今は、むき茸、ナメコのシーズンだと言う。我々も“キノコ目”で先へと進む。出発してから1時間ほどで木製のテーブルとベンチが設えてある大地

森御前に着いた。ここで大休止。ここは変則的な十字路になっており、^{いにしえ}古には交通の要衝と推察される。お助け小屋、鳥居跡、一里塚、^{えんのぎょうじか}役行者像があったと言う。

大地森御前から古道の上羽道を登り詰めて行く。カラマツ林を過ぎ、一旦、大地沢まで下る。そこから、急登を登り返す。途中にブナの根元に鎮座する小さな^{まさかり}鉞山神の石像がある。そこから巨木の森入口までは直ぐだ。時刻は11時40分。ここで栗駒古道と別れて木柵平をクロベ巨木の森へと入る。その一角に、日本一と称される幹回り約10メートルの木柵の大クロベが枝を広げていた。

クロベ（黒檜、地方名：ネズコ）は日本固有種で、石の多い急斜面に自生し、この辺りには幹回り5メートル以上のクロベが点在する。栗駒山麓には他にも日本最大級の山桜やミズナラが自生していると言う。



大クロベの前で

大クロベの前で集合写真を撮り後にする。木柵沢に架かる橋の上で各自昼食を摂る。空模様が怪しくなる中を栗駒古道に戻り、登って来た道を世界谷地の駐車場へと引き返した。駐車場に着いたのは15時を過ぎていた。愚図ついた天候ではあったが、古の雰囲気漂う古

道歩きは、キノコ狩りも楽しめ、参加者には満足して貰えたのではないかと思う。最後に、案内をお引き受けいただいた狩野ガイドに拍手で感謝の意を表し解散した。

初冬山行

報告者 加藤知宏

実施日 令和3年12月5日（日）

山 域 関山街道（宮城県と山形県の県境）

コース 国道48号線宮城県側街道入口（坂下境目御番所跡）駐車場～旧国道交差部～県境尾根～（昼食）～関山ピーク（大峠 812m）～山形県側下山口・林道～事前にデポした車に乗り、宮城県側入口駐車場に移動～現地解散

参加者 会員＝千石信夫、富塚和衛、遠藤幸壽、佐藤昭次郎、千葉正道、加藤知宏
支部友＝津久井宏 以上7名

2021年は2020年に引き続きコロナ禍のため、山行を自粛する期間があったが、感染者数が落ち着いた12月の月例山行は関山街道にて無事行うことができた。

当日は、国道48号線宮城県側入口の駐車場に集合した時点で積雪があった。千石支部長の車1台を山形県側の下山口にデポ。宮城県側街道入口には、「坂下境目御番所跡」の標柱と並んで「関山新道開削受難の碑」が立っていた。

広瀬川源流を渡渉後、急登を上り始める。旧国道と「嶺渡り」の交差部に出て100m西進すると、アルミ梯子があり、それを使って上部に出て、ロープに頼って急坂を登る。途中、雪上に残った熊の足跡を何度となく確認する。分水嶺の県境尾根に午前11時30分頃に着き、そこで昼食を摂る。

そこから北側に10分ほど登ると、関山峠ピークに到着。山頂には「大峠」という標識がある。ここでメンバー全員で記念撮影をする。



関山街道大峠にて

その後、山形県側に下山を開始した。下山コースはなだらかで歩きやすい。午後2時15分に山形県側下山口の駐車場に到着、デポした車に乗り、午後2時30分に宮城県側街道入口駐車場に移動、解散した。メンバー皆元気な様子だった。

今回山行の総括として、熊の足跡を何度となく確認し、幸いにも遭遇しなかったが、山行中に遭遇しないよう、常に周囲に気を配るとともに、同時に熊鈴やラジオを使用するなど、大きな音を立てながら人間の存在をアピールすることが重要だと思った。

また、関山街道は明治15(1882)年に関山隧道(旧国道)が開通するまで、宮城県と山形県の往来に使われていた古道で、当時は頻繁に使われていたことから、当時の人々の脚力には^{びっくり}吃驚する。

最後に、今回は雪の中を歩いたので、季節を変えて、木々の緑や道端に咲く花々を見ながらまた登ってみたいと思います。

【今後の行事予定】

○2022年2月

☆2月16日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆2月27日(日) 厳冬期山行

○2022年3月

☆3月16日(水)

定例役員会(仙台シルバーセンター)

☆3月19日(土) 会計監査

☆3月27日(日) 早春山行

○2022年4月

☆4月中旬 春山山行

☆4月下旬 令和4年度総会

原稿募集のお知らせ

今年発行します機関誌『宮城山岳』第26号の原稿を募集します。皆様の「昔の山行の思い出」や「青春時代の山」、「私の近況報告」などをはじめ、宮城支部活動への提言など、テーマはフリーですので、是非ご投稿くださいますようお願いいたします。

[原稿送り先]

○メールの場合 yrdbf275@yahoo.co.jp

○郵送の場合 〒983-0841

仙台市宮城野区原町3-2-57

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵 宛

(連絡先: 電話 256-1459)

【編集後記】

今年は日本山岳会120周年記念事業の山岳古道調査が本格始動します。古道は、いつしか歴史に埋もれ、そこに未知なるものが隠れているようで、ワクワク、ドキドキです。

これから動き出す古道調査で、新たな発見や新事実が目の目を見ることになるかもしれません。千古の森林や溪谷を縫う古道が、昔日の面影を残してきっと蘇ることでしょう。

会報・編集出版委員長 鳥山文蔵

宮城山岳通信 第25号

発行 公益社団法人日本山岳会 宮城支部

発行日 2022年1月30日

発行人 千石信夫

会報・編集出版委員会 鳥山文蔵、千石信夫、富塚和衛、細川光一、三宅 泰

事務局 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字畑中9-12（富塚宅）

